

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	保育科	夜・通信			17	17	7	
	英語コミュニケーション学科	夜・通信			13	13	7	
	現代教養学科	夜・通信			10	10	7	
	専攻科保育専攻	夜・通信			12	12	5	
	専攻科英語専攻	夜・通信			6	6	5	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.nagoyacollege.ac.jp/image/syllabus/jitumu-list-m.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人 桜花学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.ohka.ac.jp/outline/pdf/yakuinmeibo.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前桜花学園高校校長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	教学
非常勤	元法人本部総務部長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	総務・人事
非常勤	前法人本部総務部長・元 高校事務長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	人事・財務
非常勤	ATグループ代表取締役社 長	2017.12.3 ～ 2021.12.2	経営・財務
非常勤	近藤堯夫法律事務所 弁護士	2017.12.3 ～ 2021.12.2	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人 桜花学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)の作成過程 2018年度末よりFD活動の一環として、非常勤講師打合せ会にシラバス作成要領についての説明会を実施している。シラバスの内容・作成要領については教務委員会で検討し、決定した内容に基づき作成依頼を行うこととしている。 ・授業計画の作成・公表時期 シラバスの作成については、毎年12月中旬に開講科目すべてを対象として、担当者宛てに作成依頼を送付し、担当者は、1月中旬までにWebでの登録を完了し、学科長・教務委員のチェックを経て、新年度の履修登録前までにHP上で公開している。 	
授業計画書の公表方法	https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/information/course_guide/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>すべての授業科目において毎回の出席確認を実施し、あらかじめ授業計画(シラバス)に記載している評価方法に基づき厳格に学修成果を評価し、単位を与えている。また、評価の基準についても履修規程に明記している。</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> • G P A等の客観的な指標の具体的な内容 履修科目ごとの成績評価をA A (秀)、A (優)、B (良)、C (可)、F (不可)の5段階評価に対して、4、3、2、1、0のグレードポイント(G P)を付与し、個々の履修科目のG Pにそれぞれの単位数をかけ、その合計値を履修登録科目の総単位数で割った平均値をG P Aとする。 • 客観的な指標の適切な実施状況 あらかじめ設定した算出方法により算出したG P Aを、前期・後期の年2回の試験終了後の成績発表時に個別に通知している。 	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.nagoyacollege.ac.jp/image/syllabus/2024/202202.pdf</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<名古屋短期大学ディプロマポリシー>

名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。

- DP1 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。
- DP2 社会生活に必要なとされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。
- DP3 自らの持てる力を活かし社会に貢献しようとする事ができる。

<保育科ディプロマポリシー>

保育科は、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献できる有為な保育者を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「知識・技術」、「行動力」、「省察力」、「協働性」を身につけた者に短期大学士（保育学）の学位を授与する。

- HDP1 [知識・技能] 保育と保育者の本質について理解する。
- HDP2 [行動力] 豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。
- HDP3 [省察力] 自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。
- HDP4 [協働性] 多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。

<英語コミュニケーション学科ディプロマポリシー>

英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション能力を持ち国際化した社会で活躍できる人間を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「英語によるコミュニケーション力」、「思考力・判断力・表現力」、「問題発見・解決力」、「他者との協働性」を身につけた者に短期大学士（英語）の学位を授与する。

- EDP1 [英語によるコミュニケーション力] 英語による4技能をバランスよく身につけそれを用いて多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。
- EDP2 [思考力・判断力・表現力] 国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。
- EDP3 [問題発見・解決力] 現代社会における課題に対応するため、社会における問題を発見し、解決案を提示できる。
- EDP4 [他者との協働性] 他者と協働し、社会において主体的に活動できる。

<現代教養学科ディプロマポリシー>

現代教養学科は、現代を創造的に生き抜くための英知を持った人間を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す力を修得した学生に対し、時代や社会環境の変化に対して的確に対応し、自立した人間であると同時に社会と調和しながら、自信を持って自己実現を続けていくことができる人間であることを認定し、短期大学士（現代教養）の学位を授与する。

- GDP1 [コミュニケーション力] 他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える

力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていける。

GDP2〔専門知識〕幅広い分野にわたる知識を身につけ、人間、社会、自然に対する理解を深める。

GDP3〔思考力〕幅広い知識に基づき、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる。

GDP4〔行動力〕問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる。

<専攻科保育専攻ディプロマポリシー>

専攻科保育専攻は、保育に関する一層の専門的力量を養い、時代の要請に応えられる保育者の養成ならびに幼児教育の有資格者に対するリカレント教育を行うことを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「知識・技術」、「行動力」、「省察力」、「協働性」を身につけた者に修了を認定する。さらに、所定の単位を取得し、大学改革支援・学位授与機構の審査を経ることで学士（教育学）の学位が授与される。

HSDP1〔知識・技能〕教育・保育・福祉・子育て支援の本質について、保育実践に基づく知識と技能を有している。

HSDP2〔行動力〕自己を客観的に評価し、課題解決に向けて前向きな態度で行動することができる。

HSDP3〔省察力〕自分や自分たちの保育実践を俯瞰的に見つめ、省察・改善に努めることができる。

HSDP4〔協働性〕グローバルな視野を持ち、社会的ニーズを積極的にとらえながら、さまざまな分野・立場の人と連携協働して社会に貢献することができる。

<専攻科英語専攻ディプロマポリシー>

英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション能力を持ち国際化した社会で活躍できる人間を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「英語によるコミュニケーション力」、「思考力・判断力・表現力」、「問題発見・解決力」、「他者との協働性」を身につけた者に短期大学士（英語）の学位を授与する。

EDP1〔英語によるコミュニケーション力〕英語による4技能をバランスよく身につけ、それを用いて多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。

EDP2〔思考力・判断力・表現力〕国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。

EDP3〔問題発見・解決力〕現代社会における課題に対応するため、社会における問題を発見し、解決案を提示できる。

EDP4〔他者との協働性〕他者と協働し、社会において主体的に活動できる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	名古屋短期大学
設置者名	学校法人桜花学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html
財産目録	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html
事業報告書	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html
監事による監査報告(書)	https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 中長期計画書)	対象年度: 2024~2028年度)
公表方法: https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html	
中長期計画(名称: 事業計画書)	対象年度: 2024年度)
公表方法: https://www.ohka.ac.jp/outline/report.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/accreditation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/accreditation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.nagoyacollege.ac.jp/image/syllabus/2024/202205.pdf) (概要) 本学は、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）及び建学の精神に基づき、信念ある人を育成することを教育理念として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。 保育科は、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献できる有為な保育者の育成を教育目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/) (概要) ＜名古屋短期大学ディプロマポリシー＞ 名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。 DP1 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。 DP2 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。 DP3 自らの持てる力を活かし社会に貢献しようとするすることができる。 ＜保育科ディプロマポリシー＞ 保育科は、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献できる有為な保育者を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「知識・技術」、「行動力」、「省察力」、「協働性」を身につけた者に短期大学士（保育学）の学位を授与する。 HDP1 〔知識・技能〕保育と保育者の本質について理解する。 HDP2 〔行動力〕豊かな人間性を備え、自己実現や社会貢献に向けて主体的に行動する。 HDP3 〔省察力〕自らの保育実践を振り返り、改善しようと努力する。 HDP4 〔協働性〕多様な課題の解決に向けて、社会の中でさまざまな人と連携、協働する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/) (概要) ＜名古屋短期大学カリキュラムポリシー＞ 名古屋短期大学は学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。 CP1 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。 CP2 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。

<p>CP3 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性を身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習・研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において特に重要とされる科目を必修科目とする。</p> <p><保育科カリキュラムポリシー> (教育課程編成の方針) 保育科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる4つの能力を身につけた保育者を育てるために、基礎教育科目および専門教育科目を体系的に編成する。</p> <p>HCP1-1 基礎教育科目群においては、豊かな人間性と社会生活に必要とされる知識・技能を身につけるために、健康的な生活と将来を見通し、グローバル社会に対応できる知識や語学、ICTの基礎を修得できるようにする。</p> <p>HCP1-2 専門科目群においては、幼稚園教諭2種免許状および保育士資格を取得するための科目を適切に配置し、保育と保育者の本質について理解できるようにする。</p> <p>HCP1-3 専門科目群においては、変化し続ける現代社会における多様な保育ニーズに対応する能力を身につけるための独自科目を設ける。</p> <p>(教育課程実施の方針)</p> <p>HCP2-1 主体的な行動力や協働性の育成のため、「保育基礎演習」・「保育実践演習」などの科目において、少人数で実践的な教育を実施する。</p> <p>HCP2-2 実習指導の科目や保育内容指導法の科目、実技系の科目において、保育実践力を身につけるため、アクティブラーニングなどのさまざまな方法を用いた教育を実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p> <p>(概要) <名古屋短期大学アドミッションポリシー> 名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の資質を備えていることを期待する。</p> <p>AP1 本学の建学の精神および教育理念に共感する人 AP2 本学での学修に必要な基礎学力(知識・思考力/判断力/表現力)を持つ人 AP3 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人</p> <p>以上のような学生を受け入れるために、各種選抜方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。</p> <p><保育科アドミッションポリシー> 保育科は、保育に関する教育・研究を通して保育者をめざす学生の高度な専門性の修得と自己実現を支援し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献しうる有為な保育者を養成するために、次のような入学者を求める。</p> <p>HAP1 保育者になりたいという意志が明確で、そのために真剣に努力できる人 HAP2 保育者に求められる適性を備えており、それをさらに伸ばそうとする意欲がある人 HAP3 子どもとその福祉に幅広い関心を持ち、そのための学びと実践の意志をもっている人</p>
<p>学部等名 英語コミュニケーション学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/image/syllabus/2024/202205.pdf)</p>

<p>(概要)</p> <p>本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）及び建学の精神に基づき、信念ある人を育成することを教育理念として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。</p> <p>英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション能力を持ちグローバル化した社会で活躍できる人間の育成を教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p><名古屋短期大学ディプロマポリシー></p> <p>名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。</p> <p>DP1 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。</p> <p>DP2 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。</p> <p>DP3 自らの持てる力を活かし社会に貢献しようとするすることができる。</p> <p><英語コミュニケーション学科ディプロマポリシー></p> <p>英語コミュニケーション学科は、英語によるコミュニケーション能力を持ち国際化した社会で活躍できる人間を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「英語によるコミュニケーション力」、「思考力・判断力・表現力」、「問題発見・解決力」、「他者との協働性」を身につけた者に短期大学士（英語）の学位を授与する。</p> <p>EDP1〔英語によるコミュニケーション力〕英語による4技能をバランスよく身につけ、それを用いて多様な文化背景を持つ人々とコミュニケーションが取れる。</p> <p>EDP2〔思考力・判断力・表現力〕国際社会・地域で活躍するための知識と思考力、判断力、表現力を獲得している。</p> <p>EDP3〔問題発見・解決力〕現代社会における課題に対応するため、社会における問題を発見し、解決案を提示できる。</p> <p>EDP4〔他者との協働性〕他者と協働し、社会において主体的に活動できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p><名古屋短期大学カリキュラムポリシー></p> <p>名古屋短期大学は学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <p>CP1 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。</p> <p>CP2 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。</p> <p>CP3 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習・研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修に</p>

<p>において特に重要とされる科目を必修科目とする。</p> <p><英語コミュニケーション学科カリキュラムポリシー> (教育課程編成の方針)</p> <p>英語コミュニケーション学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる4つの能力を育てるため、基礎教育科目および専門教育科目を体系的に編成する。</p> <p>ECP1-1 基礎教育科目群を学修することにより、短期大学における専門教育科目を学ぶ上で必要となる学力の基礎を培う。</p> <p>ECP1-2 専門教育科目群のうち、英語に関する演習と実習科目(海外留学プログラム)では、資格取得や卒業後の進路選択に活かすことができる英語力を習得し、異文化理解により国際化した社会で多様な人々と協働する力を養う。</p> <p>ECP1-3 専門教育科目群のうち、幅広い教養を修得するための専門科目では、建学当初からの教育理念である信念ある人となるために、さまざまな分野で国際社会や地域に貢献し、活躍するための基礎的な知識と能力を身につける。</p> <p>ECP1-4 国内・海外でのインターンシップ科目を通し、他科目にて学習した内容を学外にて活かし、また実践的な知識と技能を得る。</p> <p>(教育課程実施の方針)</p> <p>ECP2-1 2年間の学修を通じて、確かな英語コミュニケーション力を身につけ、それを運用するための幅広い教養と問題意識を持つ人材を社会に送り出すために、短期大学生としての学びの基礎から実践的教育プログラムまで、さまざまなカリキュラムとプロジェクトを実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p><名古屋短期大学アドミッションポリシー> 名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の資質を備えていることを期待する。</p> <p>AP1 本学の建学の精神および教育理念に共感する人 AP2 本学での学修に必要な基礎学力(知識・思考力/判断力/表現力)を持つ人 AP3 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人</p> <p>以上のような学生を受け入れるために、各種選抜方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。</p> <p><英語コミュニケーション学科アドミッションポリシー> 英語コミュニケーション学科は、確かな英語力を身につけ、幅広い教養と豊かな感性を持って国際社会と地域に貢献できる人材を育成している。英語で「話す・聞く・読む・書く」の4技能をバランスよく身につけるとともに、コミュニケーションに必要な幅広い知識を備えた問題意識の高い人材の養成のために、次のような入学者を求める。</p> <p>EAP1 英語によるコミュニケーションに興味・関心があり、自ら学ぼうとする学習意欲のある人 EAP2 英語圏の生活・文化・交流について、幅広い興味と関心を持っている人 EAP3 異文化圏の人々との関わりを通じて自己の世界を広げたいと思っている人 EAP4 現代の国際社会・地域において自己の能力を発揮したいと思っている人 EAP5 英語を教えることに興味・関心がある人</p>
<p>学部等名 現代教養学科</p>

<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/image/syllabus/2024/202205.pdf)</p> <p>(概要) 本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）及び建学の精神に基づき、信念ある人を育成することを教育理念として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。 現代教養学科は、現代を創造的に生き抜くための英知を持った人間の育成を教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p> <p>(概要) <名古屋短期大学ディプロマポリシー> 名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。</p> <p>DP1 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。 DP2 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。 DP3 自らの持てる力を活かし社会に貢献しようとするすることができる。</p> <p><現代教養学科ディプロマポリシー> 現代教養学科は、現代を創造的に生き抜くための英知を持った人間を育成することを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す力を修得した学生に対し、時代や社会環境の変化に対して的確に対応し、自立した人間であると同時に社会と調和しながら、自信を持って自己実現を続けていくことができる人間であることを認定し、短期大学士（現代教養）の学位を授与する。</p> <p>GDP1〔コミュニケーション力〕他者の意見を理解する力と自分の意見を相手に伝える力を身につけ、それらに基づいてよりよい人間関係を築いていける。 GDP2〔専門知識〕幅広い分野にわたる知識を身につけ、人間、社会、自然に対する理解を深める。 GDP3〔思考力〕幅広い知識に基づき、より広い視野に立って、物事を考えていくことができる。 GDP4〔行動力〕問題に向かって主体的に取り組むことができると同時に、仲間と協働しながら目的に向かって着実に努力を続けられる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p> <p>(概要) <名古屋短期大学カリキュラムポリシー> 名古屋短期大学は学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <p>CP1 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。 CP2 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。 CP3 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習・研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修に</p>

において特に重要とされる科目を必修科目とする。

<現代教養学科カリキュラムポリシー>

現代教養学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる4つの能力を学修し、「現代を創造的に生き抜く英知」を育てるために、教育課程を体系的に編成する。

GCP1-1 1年基礎教養科目群においては、多様な人間関係の中で自らの考えをまとめ、発信するとともに、協働の中で社会をよりよく発展させていく力を身につけるために、「キャリアデザインⅠ」、「教養演習Ⅰ」などの科目を設ける。

GCP1-2 専門教養科目群においては、さまざまな観点から、現代社会に対する理解を深め、自己を創造的に実現するために、幅広い専門知識や技術が身につくように、フィールド群を設ける。

GCP1-3 2年基礎教養科目群においては、大きく変貌を遂げる現代社会を力強く生き抜くために、社会との関係の中で問題をとらえ、解決に向けて探究していくことができるように、「キャリアデザインⅡ」、「教養演習Ⅱ」、「卒業研究」などの科目を設ける。

GCP1-4 学外で多くの人々と交流しながら主体的に自らの人間的な可能性を切り開くとともに、実践的な知識や技能、経験を得るために、各種の「インターンシップ」や「国内研修」、「海外研修」などの学外研修を設ける。

(2)-2 教育課程実施の方針

全ての科目において、ICT やアクティブラーニングなどのさまざまな方法を用い、以下の特色のある教育を実施する。

GCP2-1 1年基礎教養科目は、少人数になるようにクラス編成を工夫し、授業を実施する。

GCP2-2 フィールド群の中から、学生が自らの関心によって2つのフィールドを選択できるようにする。

GCP2-3 2年基礎教養科目は、少人数になるようにクラス編成を工夫し、学内にとどまらず学外においても授業を実施する。

GCP2-4 学外研修は、研修内容に関する学生の要望を教員が聞き取るなどの個別相談を実施する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)

(概要)

<名古屋短期大学アドミッションポリシー>

名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の資質を備えていることを期待する。

AP1 本学の建学の精神および教育理念に共感する人

AP2 本学での学修に必要な基礎学力(知識・思考力/判断力/表現力)を持つ人

AP3 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人

以上のような学生を受け入れるために、各種選抜方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。

<現代教養学科アドミッションポリシー>

現代教養学科は、多様化する時代の中で、「自分らしく生きていく力」を身につける学科である。働くために必要な知識や資格を身につけ、生涯を通じて自分の力を発揮するための能力を養うことを目的に、次のような入学者を求める。

GAP1 高等学校で学んだ知識技能を、本学科の「幅広い学び」に活かすことのできる人

<p>GAP2 自ら考え、行動することを目指し、思い込みや自分だけの見方に捉われず、新しい知識を意欲的に学ぼうと考える人（思考力・判断力）</p> <p>GAP3 さまざまな経験を積むことによって、積極的に自己をアピールできるようになりたいと考える人（表現力）</p> <p>GAP4 仲間とともにさまざまな活動に積極的に挑戦することを通じ、自分の中に眠っている可能性を見つけ出したいと考える人</p> <p>GAP5 「現代社会を生き抜く力」に興味関心があり、その力を身につけることで、社会に貢献したいと考える人</p>
<p>学部等名 専攻科保育専攻</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/image/syllabus/2024/202205.pdf）</p> <p>（概要） 本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）及び建学の精神に基づき、信念ある人を育成することを教育理念として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。 専攻科は、短期大学における教育の基礎の上に、専攻領域に関する事項を教授し、研究を指導することを基本目的とする。 保育専攻は、保育に関する一層の専門的力量を養い、時代の要請に応えられる幼児教育者の養成並びに幼児教育の有資格者に対するリカレント教育を行うことを教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/）</p> <p>（概要） ＜名古屋短期大学ディプロマポリシー＞ 名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。</p> <p>DP1 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようと努力することができる。</p> <p>DP2 社会生活に必要とされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。</p> <p>DP3 自らの持てる力を活かし社会に貢献しようとするすることができる。</p> <p>＜専攻科保育専攻ディプロマポリシー＞ 専攻科保育専攻は、保育に関する一層の専門的力量を養い、時代の要請に応えられる保育者の養成ならびに幼児教育の有資格者に対するリカレント教育を行うことを教育目的としている。この目的を踏まえて編成された教育課程を通じて所定の単位を取得し、以下に示す「知識・技術」、「行動力」、「省察力」、「協働性」を身につけた者に修了を認定する。さらに、所定の単位を取得し、大学改革支援・学位授与機構の審査を経ることで学士（教育学）の学位が授与される。</p> <p>HSDP1〔知識・技能〕教育・保育・福祉・子育て支援の本質について、保育実践に基づく知識と技能を有している。</p> <p>HSDP2〔行動力〕自己を客観的に評価し、課題解決に向けて前向きな態度で行動することができる。</p> <p>HSDP3〔省察力〕自分や自分たちの保育実践を俯瞰的に見つめ、省察・改善に努めることができる。</p> <p>HSDP4〔協働性〕グローバルな視野を持ち、社会的ニーズを積極的にとらえながら、さまざま</p>

まな分野・立場の人と連携協働して社会に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)

(概要)

<名古屋短期大学カリキュラムポリシー>

名古屋短期大学は学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。

- CP1 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。
- CP2 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。
- CP3 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習・研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において特に重要とされる科目を必修科目とする。

<専攻科保育専攻カリキュラムポリシー>

(教育課程編成の方針)

専攻科保育専攻では、高度な保育の専門性を身につけた保育者を育てるために必要な専門科目を体系的に編成する。また、深い教養と総合的な判断力を培うために、基礎科目を置く。

- HSCP1-1 専攻科入学前に修得した専門的内容をさらに深めるための科目を配置する。
- HSCP1-2 幼稚園教諭1種免許状を取得するための科目を適切に配置し、高度な専門的知識・技能を身につけられるようにする。
- HSCP1-3 基礎科目では、豊かな人間性と社会生活に必要な知識・技能をさらに磨き、職業人としてグローバル社会に対応するための知識・技能を深めることができるようにする。

(教育課程実施の方針)

- HSCP2-1 自己実現に向けた能動的かつ自己啓発的な学びを深められるように、「専攻科基礎演習」、「学修総まとめ科目の基礎」、「学修総まとめ」などにおいて、少人数で理論的かつ実践的な教育を実施する。
- HSCP2-2 高い実践力を身につけ、職業観を確立することを目的として、「保育特別演習」では保育現場での継続的な実践教育を実施する。また、他の科目においても、保育現場を訪問したり、子どもと保護者を授業に迎えたりすることにより、多様な保育実践の機会を設ける。
- HSCP2-3 「情報処理特演」および他の科目において積極的にICTを活用し、情報活用能力の幅を広げる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)

(概要)

<名古屋短期大学アドミッションポリシー>

名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の資質を備えていることを期待する。

- AP1 本学の建学の精神および教育理念に共感する人
- AP2 本学での学修に必要な基礎学力(知識・思考力/判断力/表現力)を持つ人

<p>AP3 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人</p> <p>以上のような学生を受け入れるために、各種選抜方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。</p> <p><専攻科保育専攻アドミッションポリシー></p> <p>専攻科保育専攻は、保育に関する教育・研究を通して保育者をめざす学生の高度な専門性の修得と自己実現を支援し、人類の福祉と子どもの最善の利益に貢献し、社会に出た後も持続的に学び続け、リカレント教育を含めて自身の能力や可能性を広げることができる保育者を養成するために、次のような入学者を求める。</p> <p>HSAP1 理論と実践を探究する高度な専門性を身につけた保育者になりたいという強い意志を持ち、学士（教育学）の学位取得を目指す人</p> <p>HSAP2 保育者としての社会的使命を理解し、問題提起しながら子どもの最善の利益のために努力し続けようとする人</p> <p>HSAP3 急速に進むグローバル化や高度情報化に柔軟に対応し、社会的・国際的に活躍しようとする人</p>
<p>学部等名 専攻科英語専攻</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/image/syllabus/2024/202205.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学は、学校教育法（昭和22年法律第26号）及び建学の精神に基づき、信念ある人を育成することを教育理念として、深く専門の学術技能を教授研究し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するとともに、職業または实际生活に必要な能力を育成することを主な目的とする。</p> <p>専攻科は、短期大学における教育の基礎の上に、専攻領域に関する事項を教授し、研究を指導することを基本目的とする。</p> <p>英語専攻は、高い実践的な英語力を養成し、英語という言語と英語圏の文化に関わる研究を深め、より専門的な領域で活躍できる人材を育てることを教育目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p><名古屋短期大学ディプロマポリシー></p> <p>名古屋短期大学は各学科が定める必要単位を修得することを通して、次の能力を備えていると認定した学生に学位を授与する。</p> <p>DP1 建学の精神と本学の教育目的に則り、卒業後も自己を成長させようとする努力ができる。</p> <p>DP2 社会生活に必要なとされる教養と専門的な技術・知識を身につけている。</p> <p>DP3 自らの持てる力を活かし社会に貢献しようとする事ができる。</p> <p><専攻科英語専攻ディプロマポリシー></p> <p>専攻科英語専攻では、短期大学相当の学びを基盤とした上で、所定の教育課程を履修し、以下に示す「実践的英語力」、「国際社会において必要な教養」、「問題発見・解決力・表現力・他者との協働性」を身につけた者に修了を認定する。さらに所定の単位を修得し、大学改革支援・学位授与機構の審査を経ることで学士（文学）の学位が授与される。</p> <p>ESDP1〔実践的英語力〕国際社会で活躍するために必要な英語力を身につけ、また自らの専門分野について特に優れた英語力をもって理解し表現することができる。</p> <p>ESDP2〔行動力〕自己を客観的に評価し、課題解決に向けて前向きな態度で行動することができる。</p>

<p>できる。</p> <p>ESDP3〔問題発見・解決力・表現力・他者との協働性〕問題を調査し考究した上で結論を出す能力、およびそれを発表する能力を身につけ、社会において多様な人々と主体的に協働する態度や力を獲得している。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p><名古屋短期大学カリキュラムポリシー> 名古屋短期大学は学生が学位授与の方針に示されている要件を達成できるように、次の方針に基づきカリキュラムを編成する。</p> <p>CP1 社会生活を営むうえで必要となる広い教養を身につけるために教養科目を設置する。 CP2 各学科の教育目的・目標に則した専門的な技術・知識を身につけるために専門科目を設置する。 CP3 聴講により知識や技能を身につける講義のほか、身につけた知識や技能を活かし、自主的に学ぶ力や協働性などを身につけるための演習、自ら身につけた力を実践的なものとするための実習・研修をおく。また選択科目のほかに、それぞれの学科の学修において特に重要とされる科目を必修科目とする。</p> <p><専攻科英語専攻カリキュラムポリシー></p> <p>(教育課程編成の方針)</p> <p>専攻科英語専攻では、修了認定・学位授与の方針に掲げる3つの能力を身につけさせるため、教養教育科目および専門教育科目を体系的に編成する。</p> <p>ESCP1-1 英語の各技能を高め、国際社会への参画に直結する実践的な英語力と、人間育成に資する専門的な英語力を修得する。 ESCP1-2 英語学、英米文学の専門・応用分野、ならびに世界の各地域の歴史・文化、国際関係の各専門分野への知識を深め、人間理解の基本的な力を身につける。 ESCP1-3 学位授与と機構の認定科目を配当し、学位申請および取得に必要な英語の4技能と、その英語能力をふまえた言語、文学、文化の諸相を偏りなく修得することを通し学士力を身につける。 ESCP1-4 講義科目を通して知識の修得をし、演習科目を通して分野に応じた調査力、分野の知識を基盤に考察して結論を出す力、発表や発信を通じて他者に働きかける力を身につける。</p> <p>(教育課程実施の方針)</p> <p>ESCP2-1 2年間の学修を通じて、実用的な英語運用能力を備え、国際社会で他者と協働して活躍できる人材を育成するために、専攻科生としての学びの基礎から実践的教育プログラムまで、さまざまなカリキュラムとプログラムを実施する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/three_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p><名古屋短期大学アドミッションポリシー> 名古屋短期大学は本学への入学者に対し次の資質を備えていることを期待する。</p> <p>AP1 本学の建学の精神および教育理念に共感する人 AP2 本学での学修に必要な基礎学力(知識・思考力/判断力/表現力)を持つ人 AP3 自主的に学ぼうとする高い意欲を持ち、専門知識を身につける努力を惜しまない人</p>

以上のような学生を受け入れるために、各種選抜方法を設定し、入学者選抜のための多様な評価を行う。

＜専攻科英語専攻アドミッションポリシー＞

専攻科英語専攻は、短期大学士の学位を保有する者を対象に、実用的な英語運用能力を身につけ、国際社会で他者と協働して活躍できる人材を育成している。英語運用能力を支える教養としての英語圏の文学や、英語の言語としての特徴を積極的に学ぶとともに、それらを通して思考力、判断力、表現力を獲得できる人材を育成するために、次のような入学者を 求める。

- ESAP1 国際化する社会で他者と協働して活躍するための実践的英語力を学ぶ意欲のある人
- ESAP2 英語圏の言語・文学・地域社会・文化の各専門・応用分野に高い関心を持つ人
- ESAP3 英語学・英米文学および関連分野における調査・思考・判断・発信の各能力を高める意欲のある人
- ESAP4 異文化圏の人々との関わりを通じて視野を広げ、現代の国際社会において多様な人々と協働しながら自己の能力を發揮したいと思っている人
- ESAP5 短期大学士の学位を保有し、本学科の学修に必要な基礎的な学力・技能とコミュニケーション能力がある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.nagoyacollege.ac.jp/major/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					人
保育科	－	6人	8人	0人	1人	1人	16人
英語コミュニケーション学科	－	4人	2人	0人	1人	0人	7人
現代教養学科	－	2人	3人	0人	1人	0人	6人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
0人		75人				75人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/information/organization/kyouin.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育科	200人	147人	73.5%	440人	304人	69.1%	人	人
英語コミュニケーション学科	50人	35人	70.0%	130人	59人	45.4%	人	人
現代教養学科	50人	49人	98.0%	130人	87人	66.9%	人	人
合計	300人	231人	77.0%	700人	450人	64.3%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育科	197人 (100%)	27人 (13.7%)	162人 (82.2%)	8人 (4.1%)
英語コミュニケーション学科	25人 (100%)	2人 (8.0%)	19人 (76.0%)	4人 (16.0%)
現代教養学科	27人 (100%)	0人 (%)	24人 (88.9%)	3人 (11.1%)
合計	249人 (100%)	29人 (11.7%)	205人 (82.3%)	15人 (6.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 各市町村公務員、フジドリームエアラインズ、富士通 IS サービス、三菱地所ホテルズ&リゾート				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画（シラバス）の作成過程 2018年度末よりFD活動の一環として、非常勤講師打合せ会にシラバス作成要領についての説明会を実施している。シラバスの内容・作成要領については教務委員会で検討し、決定した内容に基づき作成依頼を行うこととしている。 ・授業計画の作成・公表時期 シラバスの作成については、毎年12月中旬に開講科目すべてを対象として、担当者宛てに作成依頼を送付し、担当者は、1月中旬までにWebでの登録を完了し、学科長・教務委員のチェックを経て、新年度の履修登録前までにHP上で公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>すべての授業科目において毎回の出席確認を実施し、あらかじめ授業計画（シラバス）に記載している評価方法に基づき厳格に学修成果を評価し、単位を与えている。また、評価の基準についても履修規程に明記している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	保育科	65 単位	有・無	単位
	英語コミュニケーション学科	68 単位	有・無	単位
	現代教養学科	70 単位	有・無	単位
	専攻科保育専攻	46 単位	有・無	単位
	専攻科英語専攻	44 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.nagoyacollege.ac.jp/campuslife/campumap

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	保育科	732000 円	200000 円	382000 円	
	英語コミュニケーション学科	732000 円	200000 円	372000 円	
	現代教養学科	732000 円	200000 円	372000 円	
専攻科	保育専攻	366000 円	280000 円	170000 円	
	英語専攻	366000 円	280000 円	170000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>入学後の履修ガイダンスに始まり履修指導・登録、試験ガイダンス、成績通知、追試験・再試験指導、実習ガイダンス等、学生に対して日常的に丁寧な対応を心がけており、ガイダンス・窓口相談を中心に履修から卒業に至る適切な学修支援を行っている。</p> <p>また、全学科において少人数のゼミを編成して、担当教員は授業と日常の指導の際に、履修状況や学生生活の様子を把握し指導を行っている。</p> <p>経済的支援においては日本学生支援機構を中心に各種奨学金の紹介や申請に係る書類手続き、面接、留学などプログラム型奨学金制度への機関申請等多くの学生が利用しやすいように対応。また、学園独自の奨学金制度もあり、修学支援を実施。入学後の家計の急変への対応、学業や運動などにおいて優れた実績のある学生への経済的支援制度の充実に努めている。さらに正課教育に組み込まれている留学に関わる費用の一部補助など修学意欲を支える支援制度を用意している。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保育科ではゼミ担当教員と学生課が連携し、進路について対応。1年次より試験対策講座を実施、その他各種のガイダンス、外部講師講演、卒業生との懇談会、保育職機関との合同説明会等きめ細やかな指導を展開している。また、CaCoRo—進路相談室に専門スタッフを配置し、保育職以外の相談に対応、一般企業就職希望者についてはガイダンス、学内合同企業説明会への参加を促しながら、一人一人の進路への助言を行っている。</p> <p>英語コミュニケーション学科、現代教養学科ではゼミ担当教員と学生課が連携をし、キャリア教育、外部講師講演、マナー講座をはじめとした各種講座を用意、学生の進路に応じた指導を展開している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>保健室を窓口でゼミ担当教員、保健室担当者、学生相談室専門スタッフ、学生課とが連携をし、一人一人の状況に応じて対応している。学生相談室は水曜日・木曜日・金曜日に開室、学生が利用しやすい時間を予約、また学生相談室以外に CaCoRo—進路相談室を開設、専門スタッフを配置し、学生の利用しやすい時間帯で対応。障がい者支援についてはガイドラインに沿って特別支援が必要な学生に対しては特別支援会議を開き、本人及び保護者と連絡を図り、本人の希望に沿った支援を行っている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.nagoyacollege.ac.jp/outline/information/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F223310106978
学校名 (〇〇大学 等)	名古屋短期大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 桜花学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		42人	43人	43人
内訳	第Ⅰ区分	30人	28人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	-	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				43人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	-	-
計	人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	人	-	-
GPA等が下位4分の1	人	18人	15人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	人	-	-
計	人	18人	18人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。